

ま え が き

土木学会は今年 11 月をもって創立 50 周年を迎えることになった。大正 3 年に日本工学会から分離したのであるが、工学会に属していた分を加えると 85 周年ということになる。

土木学会の略史は過去においては、20 年略史、25 年略史、40 年略史がある。本書は 50 周年を記念する数種の出版物の一つとして、前記の略史に続くものとして計画されたものであるが、その編集は事務局の担当として、各種の記念事業の準備に追われながらとりまとめたものである。そのため不備の点があると思われるがお許し願いたい。

過去の略史は古いものの上に新しい部分を追加するという形をとっているが、本書はそれとは多少趣を異にして、50 年の歴史を顧みてその変遷の跡をなるべくわかりやすくという配慮をし、また最近の学会活動を比較的に詳しく書くよう努力した。

最近の 10 年間わが国の経済は飛躍的に発展したのであるが、土木工学の分野においてもまた技術革新の名に恥じず急速な進歩を遂げた。したがって学会活動も活発に行なわれ、各種の委員会、講習会、出版物等も量質ともに躍進した。

会員は創立当時の 1000 人程度から 19000 人と増加し、事務所も有楽町の鉄道協会から転々と移転して四谷の現在の地に移るまでの 40 年間に 10 回移転しているが、四谷の地に移ってから 10 年、今年は 50 周年記念事業として図書館を建設して、土木学会もようやく安住の地を見出したという感が深い。

今年オリンピックが東京で開催され、そのかけ声のもとに幾多の画期的な大事業が完成した。すなわち東海道新幹線の開通、名神高速道路の完成、首都高速道路の 1 部開通、その他都内の交通整備事業等である。そして威大な技術および建設力をオリンピックと共に世界に示すことができた。土木学会もこれを契機にますます発展を続けるであろうことを願ってやまない。

昭和 39 年 10 月

専務理事 羽 田 巖